

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 以下は、高校生A, B, Cの会話である。これを読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

A : また母親と口げんかしちゃったよ。自分の考えを押し付けてくるんだもの。

B : あー、分かる。親って面倒臭いね。早く①自立して、親から離れたいよね。

C : そう? 親と一緒にの方が安心だよ。何と言っても、血を分けた家族だもの。

A : うちの両親が再婚同士で、父や妹とは②家族でも血はつながってないけど。

C : あ、うちも、同居してる父方の祖母を母が介護してるんだった。同じ家に住んで助け合い、家事や③食事を一緒にするのが家族で、血縁は関係ないか。

B : いや、一緒に住むかどうか関係ないよ。うちの場合、父が単身赴任なんだ。

A : 逆に、同居していても家族ではない場合もあるね。シェアハウスの住人とか。

B : そう? 自分たちは家族、と考えて暮らしてるなら、それも一つの家族かも。

A : え、④偏った見方だね。なら、気の合う者が一緒になれば家族、ってこと?

C : おかしいよね。子育てもせず、親の面倒もみないのに家族、だなんて。

B : 育児や介護は、家族だけに押し付けず、⑤社会全体で支え合うべきでしょ。

C : その社会の基本が、まさに家族でしょ? 結婚して、子を産み、愛情を注いで育て上げる。そういう家族がなけりゃ、国も社会も成り立たないよ。

A : 国や社会のために結婚して子どもをつくれ、みたいな言い方だね。嫌だなあ。

B : だよな。結婚にも事実婚とか色々な形があるように、⑥家族のあり方も色々あってよくて、大事なのは、当事者が自分たちで決めるってことだと思うな。

A : え、何でも⑦自己の自由、ではないと思うな。結婚するかどうかは自由でも、結婚したら家事を分担し、子どもができたら責任をもって育てないかね。

C : 何と云うか、家族あつての個人だし、そもそも家族って、⑧個人の自由にならないものだと思うな。自分の親を自分で選ぶことができないようにね。

B : うーん、家族が何かは、個人が自由に決められるものじゃないね。でも、だからこそ⑨互いの自由を尊重し合う関係を築いていくことが大切だと思うな。

A : まずは、自分の家族と向き合わないかね。母ときちんと話をしてみるよ。

問 1 下線部②に関して、青年期における自立についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 近代以前の多くの社会では、大人として自立するための通過儀礼が必要とされ、人は青年期を経て子どもから大人になるとされていた。
- ② 近代以前の多くの社会では、大人として自立するための通過儀礼は必要とされず、人は青年期を経ずに子どもから大人になるとされていた。
- ③ 青年期の人間が親による保護や監督のもとから離れ、精神的に自立して一個の独立した人格になろうとする過程は、心理的離乳と呼ばれている。
- ④ 青年期の人間が親による保護や監督のもとから離れて自立し、子どもと大人のどちらの世界にも帰属しない状態は、心理的離乳と呼ばれている。

問 2 下線部①に関連して、家族関係を多様にする要因の一つに、生殖技術の発達がある。生殖技術をめぐる状況の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 着床前診断を用いることにより、受精卵が胎児に成長した段階で、胎児の遺伝子や染色体に異常がないかどうかを検査することができるが、親が望まない子の出産を控えるなど、命の選別をもたらす、という批判がある。
- ② 親の望む遺伝子を組み込んだデザイナー・ベビーをもうけることが日本でも法的に認められ、実際にそうした子どもが誕生しているが、子どもを親の願望を実現するための道具にしてよいのか、という批判がある。
- ③ 代理出産(代理懐胎)には複数の方法があるが、どの方法を用いても、代理母が生まれてくる子どもの遺伝上の母親となるため、代理出産を依頼した夫婦との間で子どもの親権をめぐる争いが発生する場合がある。
- ④ 第三者の男性が提供した精子を用いて人工授精を行うことにより、女性が単独で子どもをもうけることも可能となっているが、将来子どもに、遺伝上の父親についての情報を知らせるかどうかの問題となる場合がある。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、次の二つの図は、平成 23 年と平成 28 年において、家族と同居している人を対象に、1 週間のうちで家族と一緒に食事をする頻度を尋ね、その結果の一部を、性別(「男性」・「女性」)と年代別(「20～39 歳」・「40～59 歳」・「60 歳以上」)に分け、調査年ごとに示したものである。これらの図から読み取れることとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。

3

図 1 1 週間のうちで家族と一緒に朝食をとる頻度(平成 23 年)

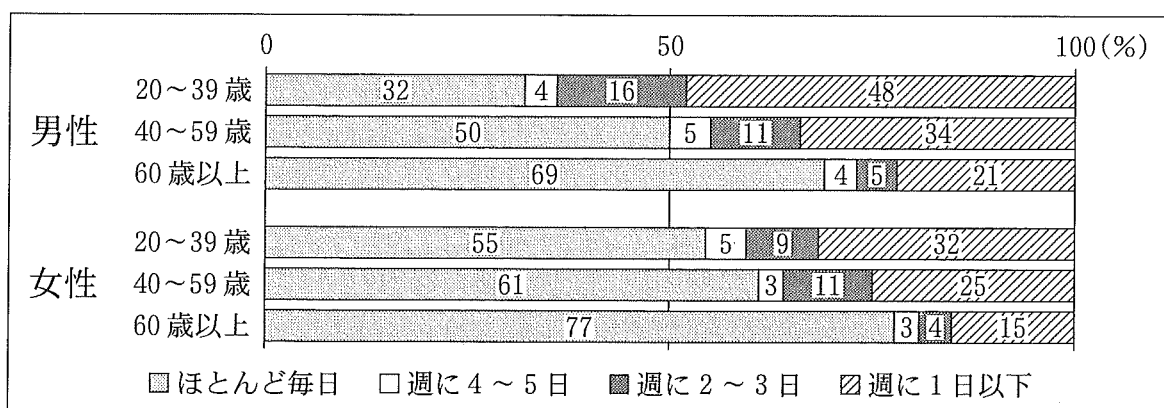
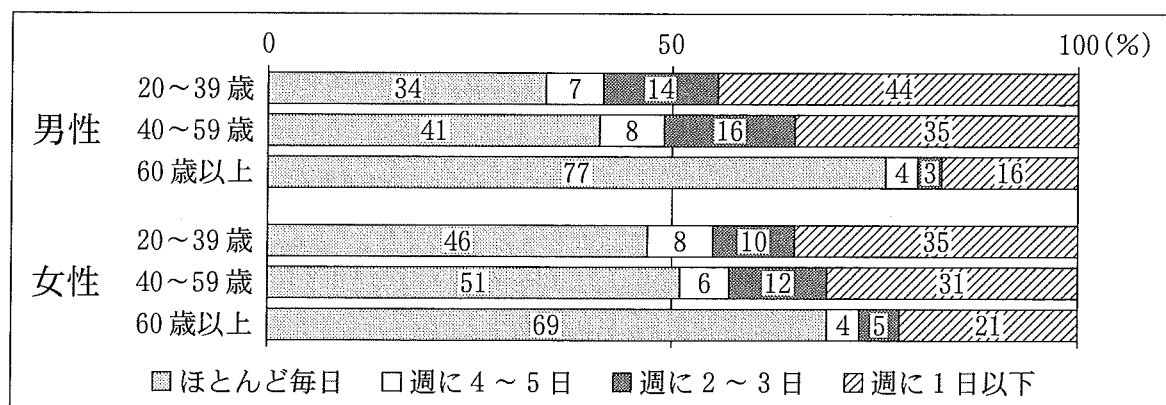


図 2 1 週間のうちで家族と一緒に朝食をとる頻度(平成 28 年)



(注) 図の数値は項目ごとに、回答した人の割合(%)を表す(無回答は除く)。小数点以下第 1 位で四捨五入しているために、総和が 100 とならない項目もある。

(資料) 内閣府『食育に関する意識調査報告書』(平成 24 年)・農林水産省『食育に関する意識調査報告書』(平成 29 年)より作成。

- ① 平成 23 年から平成 28 年にかけて、ほとんど毎日家族と朝食をとる人の割合は、いずれの年代でも、男性では上昇しているが、女性では低下しており、男女の差が開いた。
- ② 20～39 歳の年代では、ほとんど毎日家族と朝食をとる人の割合が、平成 23 年から平成 28 年にかけて、男性では上昇しているが、女性では低下しており、男女の差が縮まった。
- ③ 平成 23 年と平成 28 年のいずれにおいても、週の半分以上家族と朝食をとる人の割合は、いずれの年代でも、女性の方が男性よりも高く、女性の方が家族と一緒に朝食をとる傾向にあると言える。
- ④ 60 歳以上の年代では、男女ともに、ほとんど毎日家族と朝食をとる人の割合が最も高く、平成 23 年から平成 28 年にかけてその割合はさらに上昇しており、この年代では、家族と一緒に朝食をとる傾向にあると言える。

問 4 下線部㉔に関連して、物事に対する偏った見方の一つにステレオタイプがあるが、ステレオタイプに当てはまる発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① 男性は、物事を論理的に捉えるのが得意で、機械を組み立てたり修理したりするのが好きだよね。
- ② 塩気の多い食事ばかりしていると、高血圧になりやすいから、バランスのよい食事をした方がいいよ。
- ③ 昔、星座を考えた人がいたんだよね。電気がない昔は、夜空に輝く星々が今よりずっとよく見えただろうね。
- ④ あの人、初めて会った人にでも気楽に声をかけるよね。人と喋るしゃべるのが好きだと自分で言っていたしね。

倫理

問 5 下線部㉔に関連して、社会における様々な支え合いの試みについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① 男女が対等な立場で協力し合う社会を築くために、女子(女性)差別撤廃条約を批准した日本でも、性別に関する偏見の打破が求められている。
- ② 世界中の子どもの教育や福祉を充実させるために、国連でも、子ども(児童)の権利条約を早急に採択すべきであるという声が高まっている。
- ③ 災害復興支援などでは、政府が主導する NPO やボランティアが重要な役割を果たしており、それらの活動への国民の一層の協力が求められている。
- ④ 人命が失われるのを防ぐために、貧困や飢餓の解決よりも紛争の抑止と平和の維持を優先する、「人間の安全保障」を求める声が高まっている。

問 6 下線部㉕に関して、近代以降の日本における家族や結婚のあり方についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 高度経済成長期以前の日本では、親子だけでなく、祖父母や親族と一緒に暮らす大家族(拡大家族)が一般的な家族形態であった。
- ② 高度経済成長期以降の日本では、核家族が主要な家族形態として定着し、全世帯に占める核家族の割合は増加の一途をたどってきた。
- ③ 現在の日本では、事実婚(非法律婚)による夫婦や子をもたない共働き夫婦など、夫婦の形態が多様化する一方、結婚しない人も増えている。
- ④ 現在の日本で、学業を終えて就職した後も結婚せず、親に依存して同居を続ける人々は、パラサイト・シングルと呼ばれている。

問 7 下線部㉔に関連して、自己のあり方をめぐる様々な思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① ヤスパーズは、死や争いなどの困難な状況を克服し、自己の無限の可能性にめざめた者が新たに他者と相対することを、「実存的交わり」と呼んだ。
- ② トルストイは、二度の世界大戦を招いた文明の病理を克服すべく、「生命への畏敬」に基づき自己をあらゆる生命体の同胞とみなすことを説いた。
- ③ 小林秀雄は、戦前の日本の超国家主義を「無責任の体系」と批判し、自由と責任を内面化した自己を確立することが戦後の課題である、と主張した。
- ④ 坂口安吾は、敗戦に戸惑う日本の人々に敢えて「^あ墮ちよ」と説き、旧来の道徳に寄りかからず、ありのままの自己と向き合うべきである、と論じた。

倫 理

問 8 下線部①に関して、次の文章は、個人の自由をめぐる思想についての説明である。文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **8**

私たちは日ごろ、自分は自由な個人で、したいことを主体的に選んで生きていると思っているが、 **a** に代表される構造主義によれば、個々の言葉の使用が言語の構造に規定されるように、個人の意識や行為は社会の規則や構造に規定されている。さらに、構造主義から出発した **b** に従えば、自由な個人とは、いわば社会制度に自ら服従する人間の別名にすぎない。だが、逆に言えば、個々人が自発的に服従してしまうからこそ、社会制度が力をもつのである。このように、 **b** は、人間を規律化する制度や装置の発達に近代の特徴を見いだすとともに、服従を拒み、社会を変えていく力が人々の間に潜んでいることにも目を凝らす。自由な生への道は、決して絶たれていないのだ。

- ① a レヴィ＝ストロース b メルロ＝ポンティ
- ② a レヴィ＝ストロース b フーコー
- ③ a メルロ＝ポンティ b レヴィ＝ストロース
- ④ a メルロ＝ポンティ b フーコー
- ⑤ a フーコー b レヴィ＝ストロース
- ⑥ a フーコー b メルロ＝ポンティ

問 9 下線部①に関連して、次のロールズの文章を読み、そこから読み取れることとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 9

正義感覚は、実際に正義の原理を適用し、正義の原理に基づいて行為したい、したがって正義の観点に立って行為したい、という欲求にほかならない。……愛し合う者たちは、相手が不幸な目にあったり不当な扱いを受けたりしたら、その身代わりに自分を差し出す。友人や恋人同士は、大きな危険を冒してでも互いに助け合う。また、家族の一人一人も危険をいとわず助け合う。……愛しているとき、私たちは、愛ゆえに傷つき、失う危険を受け入れているのだ。……私たちが愛し続けているならば、自分たちの愛を後悔することはない。愛に関するこれらの事柄が、世の習いどおり、もしくは世によくある話として、真実であるならば……正義感覚についても、なおさら真実として成り立つように思われる。

(『正義論』より)

- ① 人は、愛のためなら大きな危険を冒して互いに助け合い、傷つくことを恐れず、後悔もしない。つまり、人が正義感覚をもち、正義の原理に従って行為することを欲するには、まず、互いに愛し合う必要がある。
- ② 人は、愛のためなら大きな危険を冒して互いに助け合い、傷つくことを恐れず、後悔もしない。つまり、人が正義感覚をもち、正義の原理に従って行為することを欲するのは、友人や家族など、愛する者に対してである。
- ③ 愛し合う者たちが、相手を助けて自分が傷ついても愛を後悔することがないように、正義感覚をもつ人は、正義の原理に基づいて行為することで害を受ける可能性があっても、正義の観点に立って行為しようとする。
- ④ 愛し合う者たちが、相手を助けて自分が傷ついても愛を後悔することがないように、正義感覚をもつ人は、正義の原理に基づいて行為することで害を受けることを欲し、正義のために愛を失うことを求める。

倫 理

問10 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 個人の自由を重視するAとBによれば、家族においても個々人の自由が尊重されるべきである。他方、Cは、家族とは社会の土台となる人間集団であり、その標準的な形態は核家族でなければならない、と主張している。
- ② 家族機能の外部化を肯定するAは、家族の社会的役割を強調するCの見方を批判するとともに、個人の自由を最大限に尊重するためには家族そのものを否定することが必要である、というBの主張にも反対している。
- ③ AとCによれば、家族を構成する者が協力して家事や育児を行うことは、家族の重要な役割の一つである。他方、家族形態の多様化を肯定するBの主張に従えば、家族が育児や介護を担当する必然性はない。
- ④ Cは、血縁に基づく感情的な結び付きが家族には不可欠であると主張しているが、AやBの考え方に従えば、重要なことは、家族を構成する者が一緒に暮らして協力し合うことであり、血縁関係ではない。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

我々は具合が悪くなると医者に治してもらおうとするが、病と向き合い、病を癒すことについては、古くから多様な考え方があった。先哲たちは、広い意味での「癒し」と言うべきものについて、どのように考えてきたのだろうか。

古来、病を癒すことは、㉑自然とのつながりを回復することとして語られてきた。㉒古代ギリシアの医学においては、世界や魂の調和を重視する思想を背景に、身体内の体液の均衡が失われた状態が病とされた。そして、病を癒すには、我々と自然との関係に目を向け、気候や食事を考慮して体液の均衡を取り戻すことが必要と考えられた。また、中国では、天地万物を構成する㉓気の流れを整えることが身体の健康を回復することに通じるとされた。病の癒しは、㉔心身を含めた万物において陰陽五行の気が調和している状態を取り戻すこととして考えられた。先哲たちは、自然のなかですべてが連関していて、その関係のもとで㉕人間の生が成り立っているという自覚に基づき、癒しの本質を捉えたのである。

さらに、病の癒しは、他者とのつながりを考える手がかりでもある。例えば、㉖イエスが病人を癒そうとしたことは、当時の社会から取り残されていた病人たちを見棄^{みす}てることなく、人間同士^{きずな}の絆を新たに結ぶことにもなった。キリスト教において、こうしたイエスの言行は、隣人愛の実践を目指す人々にとっての模範となっていた。㉗イスラーム教においても、信者の共同体が一人の人間^{ひと}に譬^{たと}えられ、身体における部分と全体の関係のように、誰かが病に陥ると共同体全体が不調を訴えるとされた。そのため、信者同士の慈しみや親愛を通して助け合うことの重要性が示されたのである。同様のことは、大乘仏教の『維摩経』でも説かれている。菩薩は、衆生が病む限り、自らも病む。このように衆生の苦しみを自らのものとして引き受け、その癒しを目指すことが菩薩の㉘慈悲の実践である。その背景には、すべてのものは相互に依存しながら存在するという縁起の考えがある。これらの思想において、病の癒しは、慈しみにより他者との関係を結ぶことに通じていた。

我々は皆、病と無縁では生きられず、病や病者とともにある。先哲たちは、病と向き合うなかで、自然や社会の関わりにおける各人のあり方を問い直している。これを踏まえ、我々も癒しの意義を改めて考えてみよう。

問 1 下線部㉔に関連して、自然についての様々な考えの説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① プラトンは、現象界に現れているものはすべてイデアを原型とするものであるため、自然界の諸事物も真実在であるとした。
- ② アリストテレスは、自然の世界では、種子が樹木に成長するのと同様に、すべてのものは可能態から現実態へと展開すると説いた。
- ③ 欲望に対する理性の優位を説いたストア派によれば、自然を支配する理法と人間理性とは別物であり、人は後者にのみ従うべきである。
- ④ 創造という概念を認めないキリスト教とは異なり、ユダヤ教では、自然界のすべてのものは、神によって創造されたと考えられている。

倫理

問 2 下線部⑤に関して、次の文章は、医者モラルについて述べた「ヒポクラテスの誓い」と呼ばれる文書の一部である。その内容に一致した医者のあり方として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 12

医術を授けてくださる師を、私の両親と等しい者とみなし、……また、師の子息たちが医術を学ぶことを望むならば、報酬も師弟誓約書もとることなく教えます。……養生治療を施すにあたっては、能力と判断の及ぶ限り患者の利益になることを考え、危害を加えたり不正を行う目的で治療したりしません。また、求められても、致死薬を与えることはせず、そういう助言もしません。……私の生活と医術をともに清浄かつ敬虔^{けいけん}に守り通します。……また、どの家に入っていくにせよ、患者の利益になるように考え、いかなる意図的不正も害悪も加えません。……治療のとき、または治療しないときも、人々の生活に関して見聞きすることで、およそ口外すべきでないものは、それを秘密事項と考え、口を閉ざします。

(『誓い』より)

- ① 医者は、患者が自らの死を望んでいるならば、そうした意思を尊重し、患者に致死薬を与えて安楽死に協力することも許される。
- ② 医者にとって重要なのは、患者を治療するための知識の有無であり、自身の私生活において倫理的な振る舞いができているかどうかは問われない。
- ③ ある患者にとって利益になるのであれば、医者は、別の患者を医学実験の被験者にしてその患者に不利益を与えることも許される。
- ④ 医療知識は医学を学ぶ者へ伝えていくべきだが、医者は、患者の守られるべき個人情報に関しては、いたずらに他人に伝えるべきではない。

問 3 下線部㉔に関して、朱熹(朱子)の理と気についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 心のなかにのみ存在する理を規範とし、非物質的な気を媒介として、物質としての万物が形成される。
- ② 万物に内在する理を規範とし、物質的な気が運動することによって、万物が形成される。
- ③ 心のなかにのみ存在する理を規範とし、物質的な気が運動することによって、万物が形成される。
- ④ 万物に内在する理を規範とし、非物質的な気を媒介として、物質としての万物が形成される。

問 4 下線部㉕に関連して、中国思想と仏教思想における心や身体についての考え方を説明したものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① 莊子は、心身を忘れて自然と一体化するあり方を説き、何にも囚われ^{とら}ない、精神の絶対的で自由な境地を目指した。
- ② 孟子は、仁・義・礼・智・信という五つの徳目(五常)を説き、それらを修養することで、浩然の気が身体に満ちあふれるとした。
- ③ 仏教では、人間を構成する色・受・想・行・識という五つの要素(五蘊)が説かれるが、その五つとも身体における物質的な要素のことを表す。
- ④ 仏教では、心や身体が変わらないものであることを知ることで、煩惱の炎が吹き消された涅槃の境地に至るとされる。

倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、様々な思想における死生観についての説明として最も
適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 古代インドでは、ブッダをはじめとして、バラモン教の伝統に囚われない自由思想家たちはいずれも、輪廻からの解脱という考えを否定した。
- ② パウロは、イエスの死が神に背いたアダムへの罰としてもたらされたものだと考え、アダムを祖とする人間も皆、死を免れないと説いた。
- ③ イスラーム教では、信徒は生活全般を規定するシャリーア(イスラーム法)に従って現世を生き、最後の審判にそなえなければならないとされる。
- ④ 墨家は、生者の生活に関しては儉約を旨としたが、中国の祖先祭祀さいしの伝統に基づき、死者に関してはできる限り手厚く葬るべきだと主張した。

問 6 下線部㉕に関連して、イエスが安息日に病人を癒そうとしたことの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① イエスは、安息日に関する律法からあえて逸脱することで、律法が人々の間で形式的にしか守られていないことを批判し、神に対して忠実であることの本来の意味を明らかにしようとした。
- ② イエスは、安息日に関する律法からあえて逸脱することで、律法が神の意志そのものとは関係のないものであることを明らかにし、あらゆる律法が不要な状態を理想とした。
- ③ イエスは、安息日に関する律法を厳格に守り通すことによって、律法に則のつとった正しい信仰のあり方を、自らの行いという実例を通して周囲の人々に示そうとした。
- ④ イエスは、安息日に関する律法を厳格に守り通すことによって、人々が重視していた律法と、人にしてもらいたいと思うことを人にもすべきだとする黄金律とが一致することを示そうとした。

問 7 下線部㉔に関して、イスラーム教の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① クルアーン(コーラン)は、ムハンマドと彼を取り巻く人々に下された神の啓示を、集録し、^{へんさん}編纂したものとされる。
- ② イエスを救世主とみなすキリスト教の教えを継承し、ムハンマドを救世主として信じることは、六信の一つに数えられる。
- ③ 五行などの実践によって神への信仰を体現することだけでなく、天使の存在を信じることも信徒の義務であるとされる。
- ④ イスラーム教は、中東、東南アジアなどを中心に世界各地で信仰されており、少数派のスナ派と多数派のシーア派に大別される。

問 8 下線部㉕に関して、仏教の実践としての慈悲の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 慈悲とは、四苦八苦の苦しみを免れ得ない人間のみを対象として、^{あわ}憐れみの心をもつことである。
- ② 慈悲の実践は、理想的な社会を形成するために、親子や兄弟などの間に生まれる愛情を様々な人間関係に広げることである。
- ③ 慈悲の実践は、他者の救済を第一に考える大乘仏教で教えられるものであり、上座部仏教では教えられない。
- ④ 慈悲の「慈」とは他者に楽を与えることであり、「悲」とは他者の苦を取り除くことを意味する。

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 先哲たちによれば、癒しとは、人間が自然の諸事物を自らに合わせて新しくつくり変え、病の原因をなくすことであり、また、病によって断たれた人間同士のつながりを結び直すことにも通じるものであった。
- ② 先哲たちによれば、癒しとは、自然の絶え間ない循環のなかに自己を位置づけ直すことであり、また、社会のなかで他者に依存した状態から自己を解放し、本来の自己の存在を取り戻すことでもあった。
- ③ 先哲たちによれば、癒しとは、あるべき自然の秩序に心身のあり方を調和させることであり、また、神や菩薩に対する信仰をもつことで、各人が超越的存在との絆の回復を目指すことでもあった。
- ④ 先哲たちによれば、癒しとは、各人が自然という全体の一部として生きているという視点をもつことと結び付くものであり、また、慈しみを通して他者や共同体との関係を築いていくことにも通じるものであった。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

心というものは、見ることも触れることもできず、実に捉えにくい。日本の先人たちは、こうした心について、自らの行為との関わりの中かで考えてきた。ここでは、そうした先人たちの思索をたどってみよう。

古代の人々は、神を畏れて祀^{まつ}ったが、その祭祀^{さいし}を手順通りに行うことは、自らの①神に対する心のあり方を表すものであった。②仏教が伝来すると、心は修行という行為との関わりにおいて考えられるようになる。道元は、心の問題と考えられがちな悟りを坐禅の修行そのもののうちに見いだした。また、中世の③武士たちは、忠誠心や死の覚悟といった自らの心のあり方と、一番槍^{いちばんやり}などの誰もが認める功名の実現とを一体のものだと考えた。さらに、茶の湯において④わびの理念を重んじた千利休は、作法に従った振舞を通して相手に誠意を尽くすことで、一期一会にふさわしい心の交流を目指した。彼らにとって、あるべき身体的行為の実現と心のあり方の追求とは切り離せないものだったのである。

近世には、⑤儒学思想が盛んとなり、朱子学者は、徳行を実践する必要性を説きつつも、自らの心の中に天理を求めて、まずは性・情などの心の分析を行う学問に力点をおいた。一方、荻生徂徠は、社会的行為の規範である礼^{のつと}に則^{したが}ることではじめて、心を制することができると考え、議論に偏りがちな朱子学を批判した。主張は対立していても、心と行為の関係を重視する点については両方で共通している。このような姿勢は⑥幕末の思想家たちにも引き継がれ、さらに、国を思う行動を通して心の至誠を表そうとする志士たちにも共有されていた。

近代になると、山室軍平ら⑦キリスト者たちは、信仰を内面的な心の問題にとどめず、救貧活動などの社会的な行為へと結び付けるべきだとした。また、⑧西田幾多郎も、心の認識作用である直観と、身体のはたらきである行為とが、切り離し難く結び付いていると説いた。このように、心に関連づけて考えられがちな信仰や認識も、行為に深く関わる営みとみなされたのである。

日本の先人たちは、心が行為と不可分であることを自覚し、両者の関わりについて考えてきた。我々も、自らの心を捉えようとするとき、考え込むだけでなく、自己の行為と心との関わりを見つめ直すことを手がかりとしてみてはどうだろうか。

問 1 下線部㉔に関して、次のア～ウは、古代の日本人が神に対するとき重んじた心についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 20

ア 神に対しては、自己の感情を抑え、道理によって神を理解しようとする心をもつことが大切であり、それを「真心」と呼ぶ。

イ 神に対しては、神を欺いたり自分を偽ったりすることのない心で向き合うことが大切であり、それを「清き明き心」と呼ぶ。

ウ 神に対しては、神が定めた善悪の基準に背くことのない、従順な心で接することが大切であり、それを「正直」と呼ぶ。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

倫 理

問 2 下線部⑥に関連して、鎌倉時代の仏教についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 日本に臨済宗を広めた栄西は、正式な僧となるには戒律が必要不可欠であるとの考えをもとに、東大寺に戒壇を設立して、僧を育成するための受戒制度を確立した。
- ② 時宗の開祖である一遍は、寺院や道場をもたずに全国を遊行し、踊り念仏を広めて衆生を救済することに生涯を捧げ、その教えの内容を『立正安国論』を著して示した。
- ③ 日本に臨済宗を広めた栄西は、末法の時代であっても、禅の修行により優れた人物が育つことが鎮護国家をもたらすと考え、その主張を『興禅護国論』を著して示した。
- ④ 時宗の開祖である一遍は、ただ一度だけでも「南無妙法蓮華経」と唱えれば、信・不信を問わず、すべての人が極楽へ往生できると主張し、行き合う人々に札を配って布教に努めた。

問 3 下線部㉔に関して、次の文章は、中世から近世における武士の心のあり方についての説明である。文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **22**

中世の武士たちは、戦いで勝つために強さを求め、見る者の心を動かすような武勇をその理想とした。仏教的世界観からこの世を **a** であるとみなしつつも、彼らは、自己の武勇が「名」として後世に語り継がれることを信じた。

戦いの絶えた近世には、代々受け継いだ家職において、主君への奉公を全うすることが武士たちの目的と考えられるようになった。 **b** で語られる「武士道と云は、死ぬことと見つけたり」という言葉は、生への執着を離れて、奉公に一途に徹した見事な生涯を貫こうとする覚悟を表したものである。

- ① a 無 常 b 『自然真営道』
- ② a 無 常 b 『葉隠』
- ③ a 無 常 b 『翁問答』
- ④ a 浄 土 b 『自然真営道』
- ⑤ a 浄 土 b 『葉隠』
- ⑥ a 浄 土 b 『翁問答』

倫 理

問 4 下線部④に関連して、日本の芸道や生活における美意識についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 「幽玄」は、世阿弥が大成した能楽において重んじられた、静寂のなかに神秘的な奥深さを感じとる美意識である。
- ② 「さび」は、松尾芭蕉が俳句を詠むなかで追求した、閑寂・枯淡のなかに情趣を見いだして安らぐ美意識である。
- ③ 「つう(通)」は、世事や人情の機微を深く理解することを良しとする美意識であり、近世の町人の間に広まった。
- ④ 「いき(粹)」は、武骨で垢^{あかぬ}抜けない素朴さを良しとする美意識であり、勤労と儉約を貴ぶ近世の町人によって生み出された。

問 5 下線部㉔に関して、次の文章は、近世に儒学を学んだ藤原惺窩が主君の心のあり方について解説したものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

主君の命令や法度が、よく守られるか、それとも守られないかは、主君の行動が正しいか、正しくないかということにかかっている。主君の心が真実で偽りがなく、道理を明らかにしようと思っているならば、それは正しい行動として外に表れる。そうであれば、主君がわざわざ口で命令や法度を言わなくても、自然に周囲は皆、恥じ畏れて、主君の心のままに従うものである。一方、主君の心に偽りがあるならば、主君が口で正しいことを命令し、厳しく法度を定めても、周囲はうわべでは畏れて従うふりをするが、心の底ではそれを受け入れないので、結局、命令は守られないものである。

（『寸鉄録』より）

- ① 主君が偽りのない心で道理を明らかにしようとするれば、主君の行動は正しいものとなる。周囲は、主君の正しい行動を見て感化を受け、たとえ口で言われなくても、心服して自然に主君の命令を守ろうとする。
- ② 主君の心に偽りがあるならば、その行動は正しいものとはならない。周囲は、主君の行動が正しいかどうかにかかわらず、主君が口で正しいことを命令したときにだけ、その命令を守ろうとする。
- ③ 主君の命令を周囲が守るのは、その命令の内容が正しいものだからである。周囲は、主君の命令が道理に合っていると思えば、たとえ主君の心に偽りがあっても、その命令を守ろうとする。
- ④ 主君の心が真実であっても、それが正しい行動として表れるとは限らない。周囲は、主君の行動が正しいかどうかにかかわらず、主君の心に偽りがなければ、心服して自然に主君の命令を守ろうとする。

倫 理

問 6 下線部㉑に関して、幕末の思想家についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 吉田松陰は、仏教や儒学の影響を排除して、純粋な日本古来の神の道を説く復古神道を唱え、尊王攘夷論の立場から江戸幕府の政治を批判した。
- ② 吉田松陰は、すべての民は身分にかかわらず、藩などの枠を超え日本の主君である天皇に忠誠を尽くすべきだとする一君万民の思想を主張した。
- ③ 会沢正志斎は、水戸学の立場から、国の危機に際し、日本人としての自覚と主君への忠誠心を絶対視する大義名分論を唱え、公武合体論を推進した。
- ④ 会沢正志斎は、水戸学の立場から、儒学に基づきつつ西洋文化も受容して富国を図るために開国論を主張し、諸外国との平和な関係構築を目指した。

問 7 下線部㉒に関して、近代日本のキリスト者についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 新島襄は、『代表的日本人』を著し、中江藤樹などの優れた先人が育んできた日本の文化的土壌にこそキリスト教が根付くと主張した。
- ② 新渡戸稲造は、国際社会における地位向上のため、キリスト教に基づく教育を行い、日本の西欧化に尽力するとともに、脱亜論を主張した。
- ③ 植村正久は、『武士道』を著し、武士道道徳を基盤として、キリスト教的な人格主義教育を行うことが日本の近代化に必要だと主張した。
- ④ 内村鑑三は、日清戦争を正義のための戦いと捉えて肯定したが、日露戦争に際してはキリスト教に基づく非戦論を主張した。

問 8 下線部①に関して、「無の場所(絶対無)」を論じた西田幾多郎についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① すべての意識や実在の根底に「無の場所」を考え、「無の場所」の限定である現実の世界においては、様々な事物や事象が絶対的な矛盾や対立を残したまま、統一されていると説いた。
- ② 西洋哲学における伝統的な二元的思考に基づいて、主観により生じる「無の場所」を否定し、現実世界においては、様々な事物や事象が絶対的な矛盾や対立を残したまま、統一されていると説いた。
- ③ すべての意識や実在の根底に「無の場所」を考え、「無の場所」の限定である現実の世界においては、様々な事物や事象の間にいかなる矛盾も対立も存在しないと説いた。
- ④ 西洋哲学における伝統的な二元的思考に基づいて、主観により生じる「無の場所」を否定し、現実世界においては、様々な事物や事象の間にいかなる矛盾も対立も存在しないと説いた。

倫 理

問 9 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

28

- ① 古代の人々は、手順通りに祭祀を行うことを通して神に対する自らの心を表し、朱子学者は、社会的行為の規範である礼に従って行為することで心を制するべきだと説いた。いずれも、心そのものよりも、心の表れである行為の実現を重視している点では共通している。
- ② 道元は、悟りという目的に至る手段として坐禅という行為を捉え、近代のキリスト者たちは、信仰を実現するために社会的行為を实践すべきだと考えた。いずれも、心の問題を解決するための手段となる行為よりも、心そのものを重視している点では共通している。
- ③ 中世の武士たちは、理想的な心のあり方と一番槍などの具体的な功名の実現とを一つのもので考え、幕末の志士たちは、国を思う行動を通して心の至誠を表そうとした。いずれも、心と自らの行為との結び付きを重視している点では共通している。
- ④ 荻生徂徠は、徳行を实践するためにはまず学問によって心を分析することが必要であると説き、西田幾多郎は、直観と行為との間に切り離し難い関係があることを説いた。いずれも、心と自らの行為との結び付きを重視している点では共通している。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

ある日突然、恋に落ちた。まるで運命としか思えないその出来事を、どう考えればいいのか。運命の捉え方次第で、私たちの生き方も大きく変わる。運命についての考え方を、西洋近現代思想のうちにたどってみよう。

古くから、運命は不可避の定めとして考えられてきたが、ルネサンス期以降の人間中心主義の高まりに伴い、運命と対峙する人間の力や自由にも目が向けられた。自然や社会の趨勢が動かし難くみえても、人間はそうした運命に抗い、それを変え得る。㉔ マキャヴェリは、人間は変転する状況に巻き込まれても、それに柔軟かつ果敢に立ち向かい、運命を味方にすることもできると考えた。また、㉕ ベーコンも、人間は内面を養えば、外部の出来事に左右されても、運命を引き寄せ得ると説いた。困難な定めであっても、諦めずに挑む気持ちは、必要なのである。

それに対して、この世界を理にかなったものとして信頼し、いかなる出来事も善き運命のもとにあるとして肯定する考え方も現れる。㉖ ライプニッツは、どれほど不幸や悪があるとしても、全体としては、この世界は最善であるとみなした。また、ヘーゲルによれば、歴史のうちに停滞や退歩が見受けられるとしても、大局的にみれば、それらはすべて世界精神が㉗ 自由を実現する過程であるとされる。彼らの思想には、個々の出来事がどのようなものであれ、それらをいずれも然るべき世界の一部であると捉える考え方を見取ることができる。

ところが、さらに時代が下ると、運命を新たに捉え直し、意味や目的を何ら見いだせずとも、自らの身に降りかかった出来事をすべて引き受けようとする立場も現れる。ニーチェは、意味も目的も欠いたこの世界のなかで、自らの生を引き受けることを㉘ 運命愛と名付けた。また、㉙ サルトルは、偶然の状況に投げ込まれながらも、そこでなお新たな生き方を模索する人間のありように、自由を見いだした。いかなる運命をも、自らのこととして受け止め得るのが、人間なのである。

先人たちは、様々な出来事を前に、それぞれに運命を考え抜いた。これら先人たちの思想は、人生の難しい㉚ 選択の場面にあつて、大いに示唆を与えてくれる。私たちの恋も、望み通りに運ぶときもあれば、予想外に展開するときもある。臆せず驕らず、運命に向き合ってみよう。人生の新たな姿が見えてくるはずである。

問 1 下線部④に関して、マキャヴェリの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 国家は、統治者、防衛者、生産者の三つの階級がそれぞれの能力を発揮し、統治者のもとで全体としての秩序と調和が保たれることで成り立つ。
- ② 政治は、人間の現実のありようを踏まえた統治の技術であり、君主は、強さと賢さをもって国家統治を果たすべきである。
- ③ 王権は、神から授けられた絶対的なものとして正当化されるため、人民は君主に服従すべきであり、逆らうことは許されない。
- ④ 人々は、権利を自由に行使することから生じる戦争状態を脱するため、自らの権利を放棄し、強大な統治者へ譲渡しなければならない。

問 2 下線部⑥に関して、次のア・イは、ベーコンによるイドラについての説明であるが、それぞれ何と呼ばれているか。その組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ア 人間相互の交わりおよび社会生活から生じる偏見。例えば、人々の間を飛び交う不確かな噂^{うわさ}を、事実であると信じ込むこと。
- イ 個人の資質や境遇^{とら}に囚われることから生じる偏見。例えば、自分が食べ慣れた好物を、誰もが好むに違いないと思い込むこと。

- ① ア 種族のイドラ イ 劇場のイドラ
- ② ア 種族のイドラ イ 洞窟のイドラ
- ③ ア 市場のイドラ イ 劇場のイドラ
- ④ ア 市場のイドラ イ 洞窟のイドラ

倫 理

- 問 3 下線部㉔に関して、次の文章は、経験論と合理論をめぐるライプニッツの思想的立場についての説明である。文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 31

経験論も合理論も、人間の認識能力に信頼をおく点では共通するが、知識のもととなる観念の形成をめぐる考え方が異なる。経験論は、心に生まれつきそなわる観念の存在を否定する。例えば、ロックは、観念は感覚的な経験によって心にもたらされると主張し、その際の心のありさまは **a** と呼ばれた。

ライプニッツは、合理論の立場からロックに論争を挑み、感覚や経験から観念を形作る知性の働き自体は、人間に生まれつきそなわっていると主張した。この主張を裏づける体系的理論を、ライプニッツは **b** において展開し、世界を構成する無数の実体と、その全体的調和について論じた。

- | | | |
|---|--------------|-----------------|
| ① | a 繊細の精神 | b 『省察』 |
| ② | a 繊細の精神 | b 『エチカ』 |
| ③ | a 繊細の精神 | b 『モナドロジー(单子論)』 |
| ④ | a 白紙(タブラ・ラサ) | b 『省察』 |
| ⑤ | a 白紙(タブラ・ラサ) | b 『エチカ』 |
| ⑥ | a 白紙(タブラ・ラサ) | b 『モナドロジー(单子論)』 |

問 4 下線部㉑に関して、ヘーゲルの歴史観についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 絶対精神は、歴史の発展過程において、道徳によって人間を外側から、法によって人間を内側から規制し、最終的に両者の対立を総合した人倫において、真の自由を実現する。
- ② 絶対精神は、自らの抱く理念を実現する過程において、理性の狡知を発揮して、自らの意図に沿うように人間を操り、歴史を動かしていくことで、真の自由を実現する。
- ③ 絶対精神は、歴史の発展過程において、人倫によって人間を外側から、道徳によって人間を内側から規制し、最終的に両者の対立を総合した法において、真の自由を実現する。
- ④ 絶対精神は、自らの抱く理念を実現する過程において、理性の狡知を発揮して、国家同士を争わせ、歴史を通してそうした対立状態を保ち続けることで、真の自由を実現する。

倫 理

- 問 5 下線部㉔に関して、次の文章は、九鬼周造が、ニーチェの運命愛の思想について論じたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33

あることもないこともできるようなもの、それがめったにないものならばなお目立ってくるわけでありますが、そういうものがヒョッコリ現実面へ廻り合わせると、それが偶然なのであります。……偶然な事柄であってそれが人間の生存にとって非常に大きい意味をもっている場合に運命というのであります。……「意志が引き返して意志する」ということが自らを救う道である……このツァラトストラの教は偶然なり運命なりにいわば活を入れる秘訣であります。人間は自己の運命を愛して運命と一体にならなければいけない。……他のことでもあり得たと考えられるのに、このことがちょうど自分の運命になっているのであります。人間としてその時になし得ることは、意志が引き返してそれを意志して、自分がそれを自由に選んだのと同じわけ合い*にすることです。

(「偶然と運命」より)

*わけ合い：物事の筋道，意味，理由。

- ① 運命とは、起こることも起こらないこともあり得たような、取るに足りない偶然の出来事のことである。人は、そのような偶然を自分が選んだのだと考えることではじめて、その運命に重大な意味を与えることができる。
- ② 運命とは、人生にとって重大な意味をもった偶然の出来事のことである。そのような出来事は起こることも起こらないこともあり得たのだと考えることによって、人は、その運命を愛し、自らを救うことができる。
- ③ 偶然とは、めったに起こらないことが起こったものであり、それが人生にとって重大な意味をもつと、運命と呼ばれる。人は、たとえ自分が選んだものとして愛せなくても、その運命に耐えねばならない。
- ④ 偶然とは、起こることも起こらないこともあり得た出来事のことであり、それが人生にとって重大な意味をもつと、運命と呼ばれる。人は自らを救うために、偶然を自ら選んだこととして捉え、運命と一体化せねばならない。

問 6 下線部①に関して、サルトルの思想の説明として適当でないものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 人間は、自己と自己を取り巻く社会の現実に関わらざるを得ないが、全人類への責任を自覚し、自ら進んで社会へ身を投じることで、現実を新たにつくりかえていく可能性に開かれている。
- ② 人間は、絶えず自らを意識しながら、自らを新たに形作ろうと努める存在であるため、いかなる状況においても変化しない、同一の本質をそなえた事物とは異なっている。
- ③ 人間は、自由であることから逃れられず、自由であることから生じる責任を他者に委ねることもできないため、不安に耐えて、自己と自己を取り巻く社会の現実に関わらざるを得ない。
- ④ 人間は、あらかじめ自らの本質が定められており、その本質を実現するために自らを手段として活用することによって、未来の可能性を切り開いていく、自由な存在である。

倫 理

問 7 下線部㉔に関連して、自然選択(自然淘汰)や適者生存を論じた思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① ダーウィンによれば、あらゆる生物は共通の祖先から枝分かれしながら進化してきたのであり、自然選択(自然淘汰)によって環境によりよく適応した種が生き残っていく。
- ② ダーウィンによれば、あらゆる生物の種はそれぞれの固有の祖先から変化することはなく、自然選択(自然淘汰)によって環境によりよく適応した種が生き残っていく。
- ③ スпенサーによれば、人間社会もまた自然選択(自然淘汰)の法則に従っており、適者生存のメカニズムを通じて軍事的指導者が支配する社会へと進化していく。
- ④ スペンサーによれば、人間社会もまた自然選択(自然淘汰)の法則に従っており、適者生存のメカニズムを国家が人為的に統制することで社会は進化していく。

問 8 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 先人たちの思想のうちには、やむなき運命に抗う立場もあれば、運命を自らのものとして引き受ける立場もある。前者が困難な状況に立ち向かう人間の自由を強調しているのに対して、後者は、無意味な出来事や偶然的な状況を引き受ける人間の生き方を重視している。
- ② 先人たちの思想のうちには、やむなき運命を最善とみなす立場もあれば、運命を自らのものとして引き受ける立場もある。いずれにおいても共通しているのは、個人の不運は、積極的に改善しようと試みなくても、いつかは必ず解決されるという見方である。
- ③ 先人たちの思想のうちには、やむなき運命に抗う立場もあれば、それを最善とみなす立場もある。前者は、周囲の状況にかかわらず、人間の力によって運命は変わり得るとする立場であり、後者もまた、^あ悪しき出来事も人間の力によってすべて最善の運命へと変え得るとする立場である。
- ④ 先人たちの思想のうちには、やむなき運命に抗う立場もあれば、それを最善とみなす立場もあり、さらには、運命を自らのものとして引き受ける立場もある。いずれにおいても共通しているのは、運命の行く末全体はあらかじめ見通せるという信念である。